八ヶ岳、乙女の滝、大同心大滝

アイスクライミング

2008/2/21～22
L 河崎、小藤、斉藤（記）
「大同心大滝」という名前を聞くたびに、その青く聳える威圧感のある大滝が目に浮かぶ。河崎さんに大同心大滝行きを誘われた時、二つ返事で「行きましょう」と答えたものの「大丈夫かなぁ？」と多少の不安を抱えたまま、今回の山行となった。メンバーはこの所すっかりいつものメンバーとなっている河崎さん、小藤さんとの三人となった。

行程：

2/21
美濃戸 9:20～10:10 堰堤広場 10:25～11:10 赤岳鉱泉 12:10～12:35 F2 13:35 乙女の滝 16:35～17:00 赤岳鉱泉（テン場）

2/22
6:30 起床 8:15～8:50 大同心大滝 13:05 テン場 14:00～15:00 美濃戸

2/21
朝、集合場所の本厚木を発つ。前日は一日雨であったが、その日は雲一つ無い快晴だった。この冬の山行は天候に良く恵まれている。車で美濃戸口を越え、美濃戸へと続く林道は積雪も少なく、楽々と美濃戸の駐車場に着いた。そこからの歩きは2月とは思えない程の暖かさの為、テン場となる赤岳鉱泉に着く頃には、汗だくになってしまった。テントを張り、昼食を摂り、アタックザックを背負うとジョウゴ沢へと向かう。昨年末にもジョウゴ沢に来ており、その時は、右俣大滝と乙女の滝を登ったので、今回は本谷の大滝とナイアガラの滝の登攀をと考えていた。乙女の滝を右手に見ながらジョウゴ沢を遡行して行く。奥の二股を左に入りナイアガラの滝に着くとすっかり雪に埋まってしまっていた。即、本谷の大滝に移動と決定する。右側の尾根を乗っ越して大滝に着くが、やっぱり埋まってしまっていた。これでは登攀価値が無いと結局、乙女の滝に戻る事にする。

乙女の滝に着き登攀準備を整える。乙女の滝は 12 月に来た時より、かなり発達しておりストンと垂直に切り立っていた前回よりスタンスが増え、多少易しくなっている様子であった。まずは、河崎さんにリードしてもらいトップロープをかけてもらう。トップロープにて私と小藤さんが登る。体が慣れた所で 2 本目は皆でリードする。左の弱点をついたラインでなんとかスムーズに登る事が出来た。3 本目は再びトップロープで登る事に。トップロープという事で中央のカンテ状になっているちょっと難しそうなラインにチャレンジしてみる。かなり、パンプしてしまった。皆 3 本ずつ登り、大満足でテン場へと戻る。天気が良いせいも有りテン場に戻ってもまだ、

明るく、赤岳鉱泉名物の人口氷壁「アイスキャンディー」には、まだ数人が取り付いていた。聞くと 1 週間後にコンペが控えているらしく、その為の練習らしかった。コンペクライマー達のクライミングを暫く見学する。その夜は石尊稜を登りに来ている、山本さん、釣さんと合流し楽しく過ごす。

2/22

前の晩より一気に冷え込み、良く冷えた朝となった。いよいよ今日、大同心大滝の登攀と思うだけで朝から緊張していた。大同心大滝まではアクセスもいいという事でゆっくりと朝食を摂り、出発とする。大滝に着くとすでに 2 パーティーが取り付いていた。

大同心大滝を目の前にするとさすがにその堂々とした姿に圧倒される。高低差 50m あるという滝だが 1 段目は雪に埋まり、実際の登攀距離は 30m 程だろうか。先行者の抜けた所で、河崎さんが 1 番左のラインをリードする。その後トップロープで私と小藤さんが続く。後半に長い垂直部分が続く為、1 回登っただけで前腕がパンパンに張ってしまった。その後もラインを変えながら、トップロープで練習し、一人 3 本ずつ登る事が出来た。垂直に体が慣れる事が出来、大変な充実感と自信を得る事が出来た。次に大同心大滝を登る時には是非リードで登りたいと思う。